

IV 幼児教育実態調査【保護者編】

1 調査の概要

① 年齢別内訳

	回答数	割合
20歳代以下	160	12.1%
30歳代	922	69.6%
40歳代	201	15.2%
50歳代以上	10	0.8%
未記入・無効等	31	2.3%
計	1,324	100.0%

② 地域別内訳

	回答数	割合
福井・坂井	643	48.6%
奥越	95	7.2%
丹南	300	22.7%
嶺南	253	19.1%
未記入・無効等	33	2.5%
計	1,324	100.0%

③ 性別内訳

	回答数	割合
男	175	13.2%
女	1,117	84.4%
未記入・無効等	32	2.4%
計	1,324	100.0%

④ 全国調査の概要

調査時期	調査対象	対象数	回答数	回答率
H22.3月	首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）の0歳6か月～6歳児就学前の乳幼児をもつ保護者	7,801	3,522	45.1%
	(全体)	7,801	3,522	45.1%

2 幼児家庭の状況

①母親の職業

	回答数	割合
常勤（フルタイム）	418	31.6%
パートタイム	348	26.3%
自営業	65	4.9%
専業主婦	321	24.2%
産休・育児休暇中	106	8.0%
その他	28	2.1%
未記入・無効等	38	2.9%
計	1,324	100.0%

②父親が最後に卒業した学校

	回答数	割合
中学校	62	4.7%
高等学校	423	31.9%
専門学校	153	11.6%
高等専門学校	33	2.5%
短期大学	34	2.6%
4年制大学	500	37.8%
大学院（6年制大学含む）	69	5.2%
その他	10	0.8%
未記入・無効等	40	3.0%
計	1,324	100.0%

③幼児の兄弟・地域別内訳

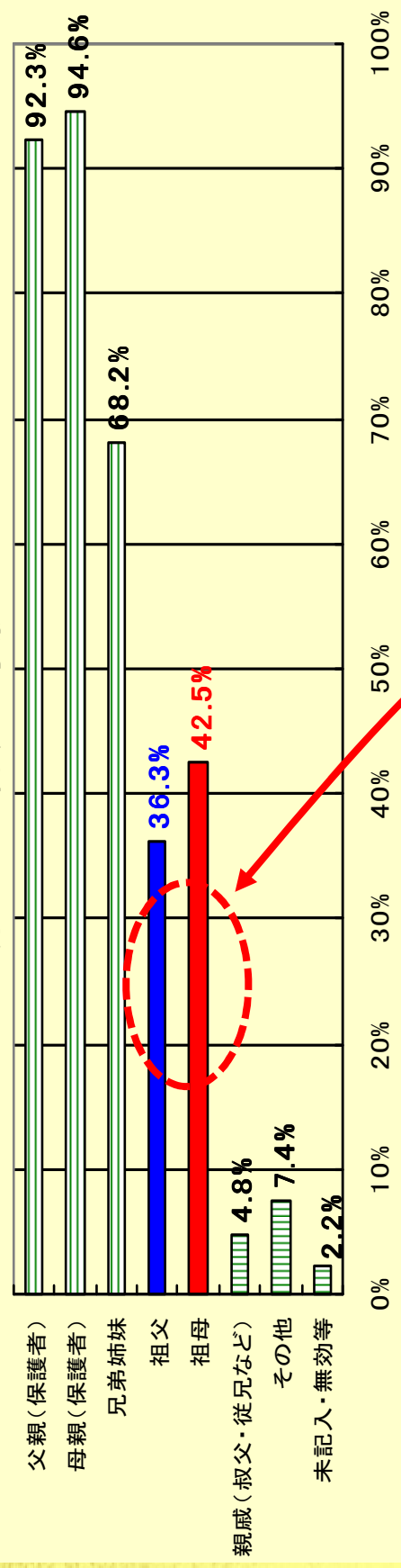
	福井・坂井	奥越	丹南	嶺南	未記入・無効等	計
一人っ子	150	28	93	56	9	336
割合	23.3%	29.5%	31.0%	22.1%	27.3%	25.4%
2人	348	41	128	120	17	654
割合	54.1%	43.2%	42.7%	47.4%	51.5%	49.4%
3人	125	22	65	66	7	285
割合	19.4%	23.2%	21.7%	26.1%	21.2%	21.5%
4人	17	3	14	8	0	42
割合	2.6%	3.2%	4.7%	3.2%	0.0%	3.2%
5人以上	2	1	0	3	0	6
割合	0.3%	1.1%	0.0%	1.2%	0.0%	0.5%
未記入・無効等	1	0	0	0	0	1
割合	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
合計	643	95	300	253	33	1,324
割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④ 幼児の年齢・施設別内訳

	私立幼稚園	国公立幼稚園	私立保育所	公立保育所	私立こども園	公立こども園	その他の施設	通園していない	未記入・無効等	計
0歳児	1 (0.7%)	0	28 (19.2%)	11 (7.5%)	0	0	1 (0.7%)	105 (71.9%)	0	146 (100%)
1歳児	2 (0.8%)	0	66 (26.6%)	49 (19.8%)	3 (1.2%)	2 (0.8%)	8 (3.2%)	117 (47.2%)	1 (0.4%)	248 (100%)
2歳児	14 (5.4%)	1 (0.4%)	93 (36.2%)	72 (28.0%)	0	4 (1.6%)	8 (3.1%)	64 (24.9%)	1 (0.4%)	257 (100%)
3歳児	25 (9.7%)	20 (7.8%)	95 (37.0%)	98 (38.1%)	4 (1.6%)	1 (0.4%)	2 (0.8%)	11 (4.3%)	1 (0.4%)	257 (100%)
4歳児	50 (17.9%)	12 (4.3%)	108 (38.7%)	101 (36.2%)	1 (0.4%)	0	5 (1.8%)	2 (0.7%)	0	279 (100%)
5歳児	23 (18.3%)	17 (13.5%)	36 (28.6%)	47 (37.3%)	2 (1.6%)	1 (0.8%)	0	0	0	126 (100%)
未記入・無効等	2 (18.2%)	0	3 (27.3%)	3 (27.3%)	0	0	0	2 (18.2%)	1 (9.1%)	11 (100%)
計	117 (8.8%)	50 (3.8%)	429 (32.4%)	381 (28.8%)	10 (0.8%)	8 (0.6%)	24 (1.8%)	301 (22.7%)	4 (0.3%)	1,324 (100%)

同居家族

幼児と同居する家族

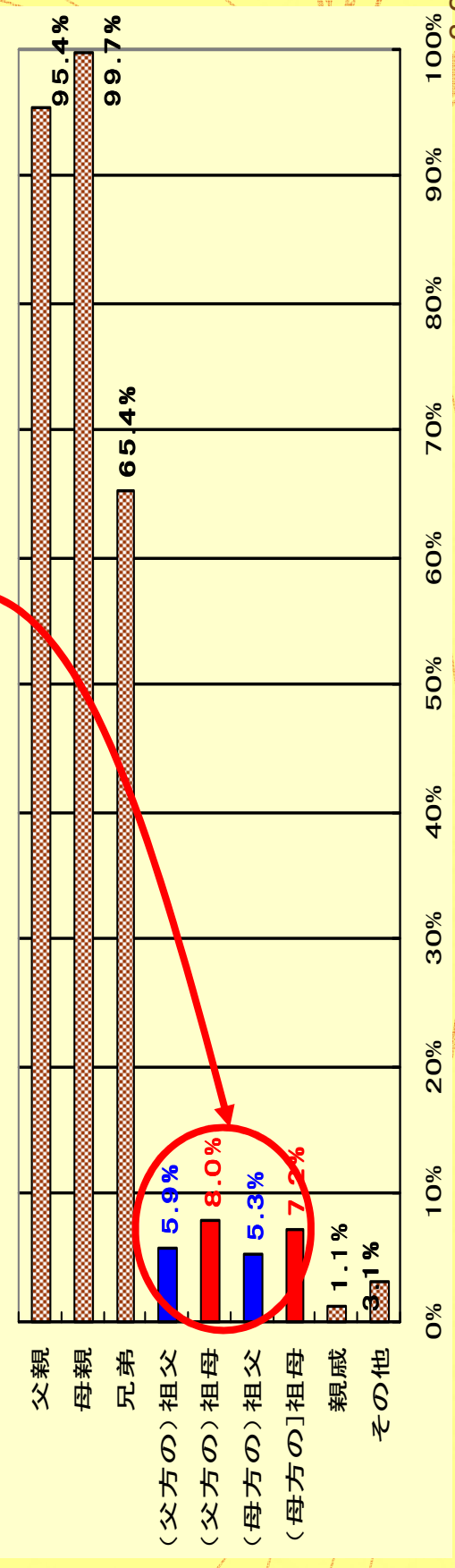


全国調査との比較

本県の祖父母との同居割合は全国調査の約6倍

○祖父 本県36.3% 全国5.6% ○祖母 本県42.5% 全国7.6%

子どもとの同居家族 ～全国調査～

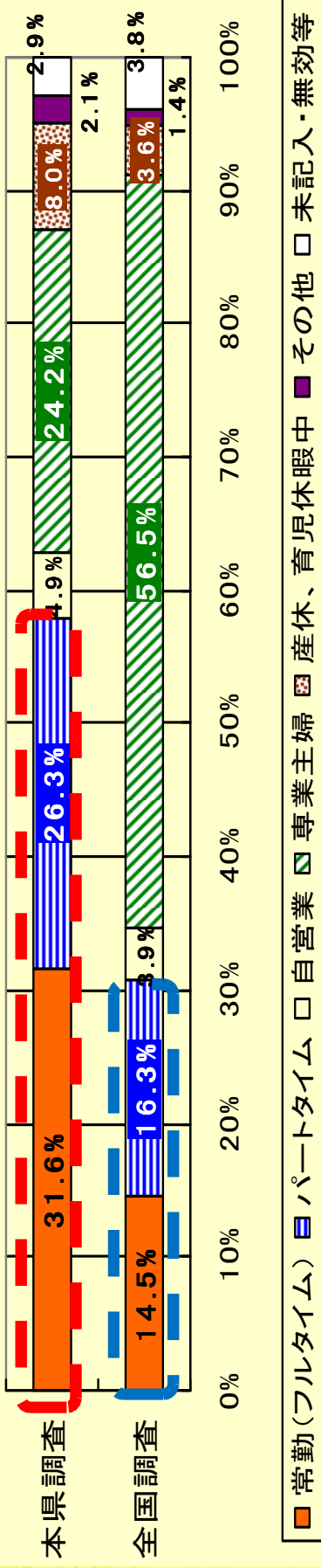


全国調査との比較（母親の就業状況）

「常勤」と「パートタイム」の合計が全国の約1.9倍

「産休・育児休暇中」の割合も約2.2倍

母親の就業状況

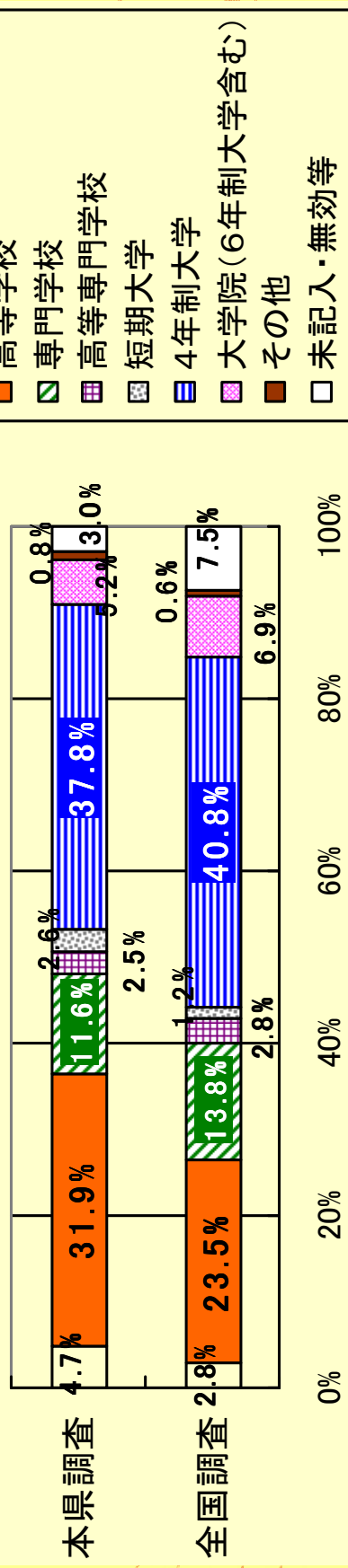


全国調査との比較（父親の最終学歴）

「高等学校」の割合が全国より8.4%高い。

「専門学校」と「4年生大学」の割合が約2%低い。

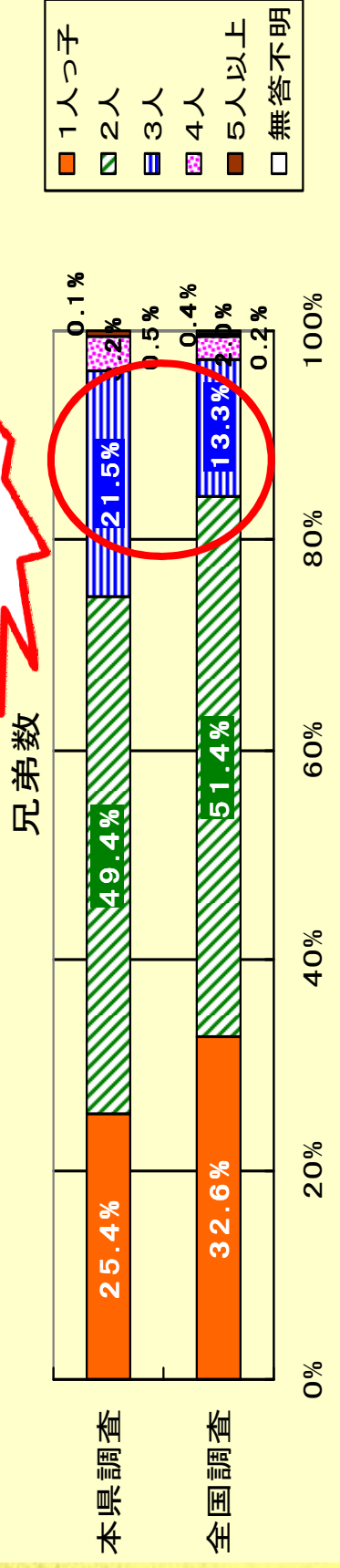
父親の最終学歴



全国調査との比較（兄弟数）

3人以上の兄弟の割合は本県が高い。

兄弟が多い福井
県の幼児



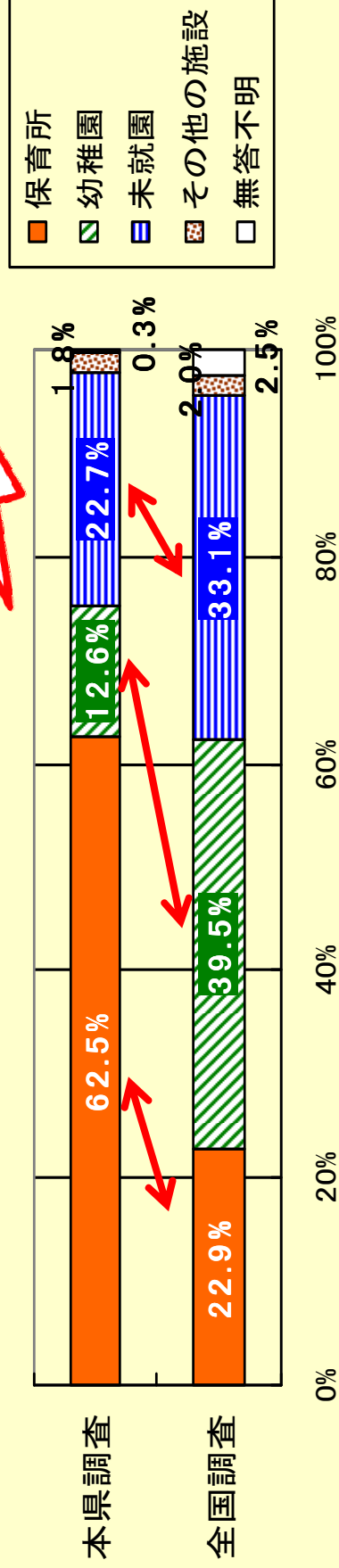
全国調査との比較（就園状況）

本県と全国の保育所・幼稚園の就園比率が、逆転している。

本県は、未就園児が10.4%低く、就園率が10.4%高くなっている。

就園率が高い
福井の幼児

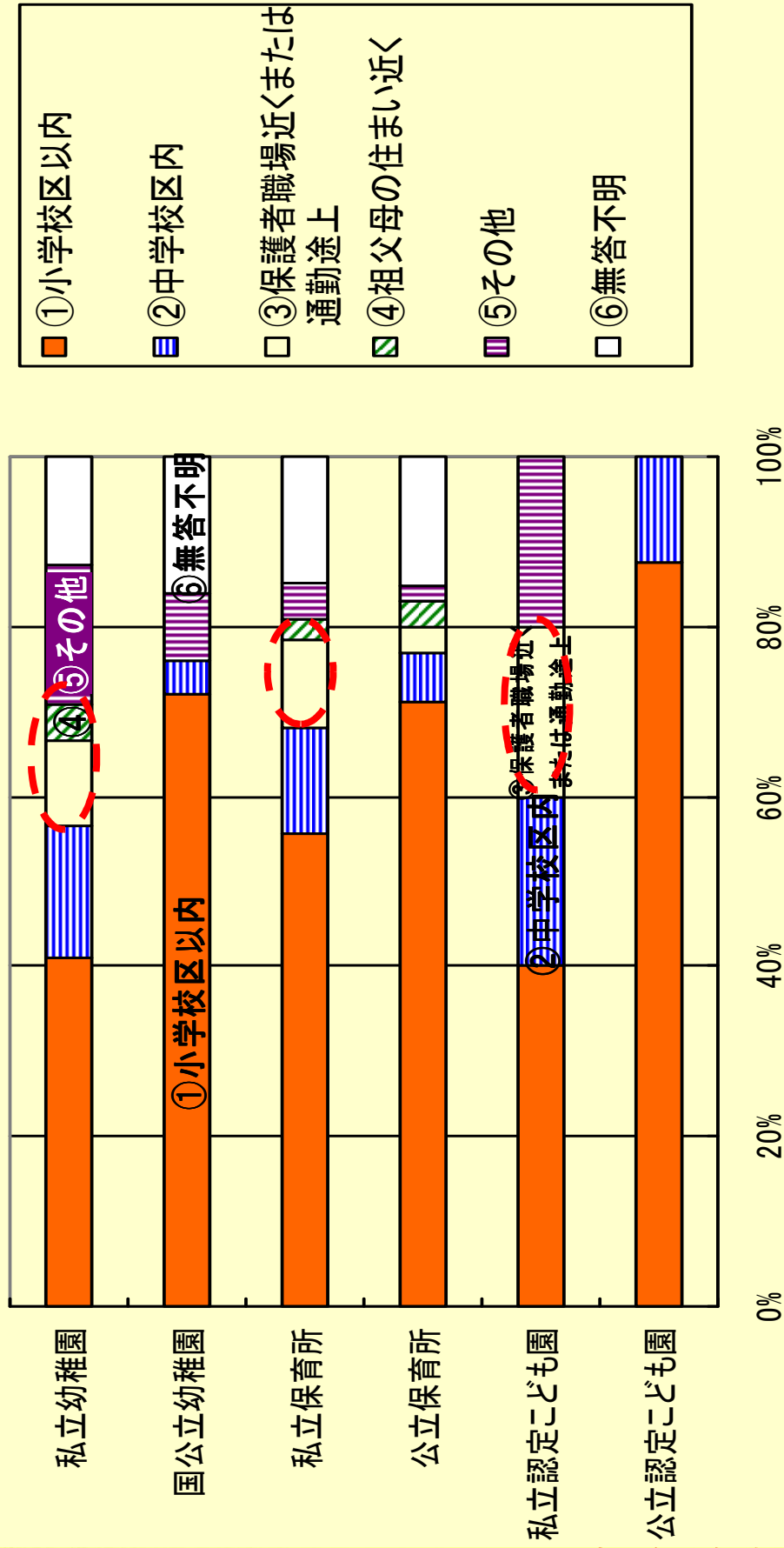
就園状況



通園する保育所・幼稚園の所在地

- 公立施設 「①小学校区内」または「②中学校区内」が多い。
- 私立施設 「③保護者職場近くまたは通勤途上」または「⑤その他」が目立つ。

通園する保育所・幼稚園の所在地

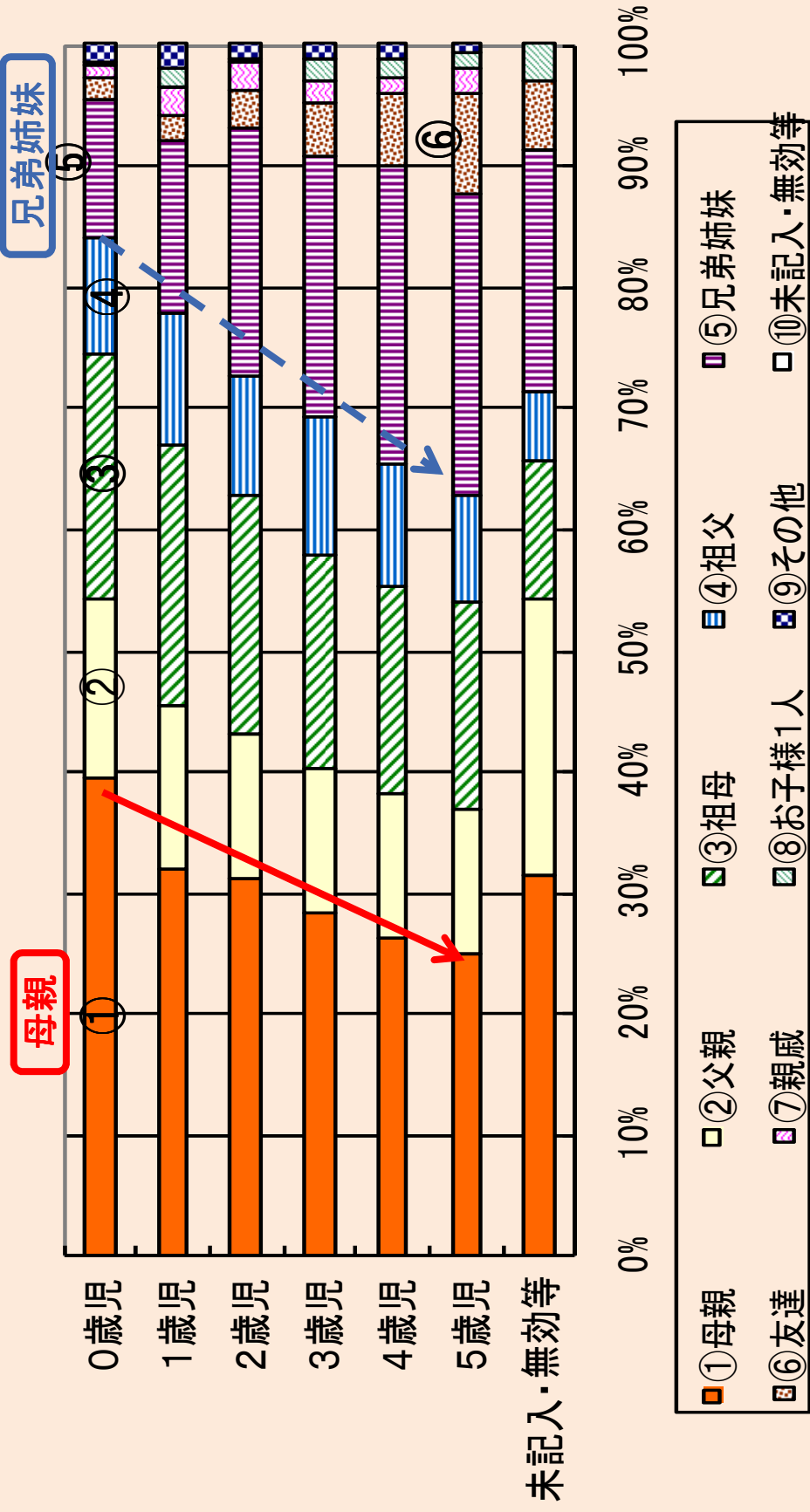


3 育児の状況

幼児の遊び相手または面倒を見られる人

年齢が上がるにつれて、遊び相手が①母親から、⑤兄弟姉妹または⑥友達に移行

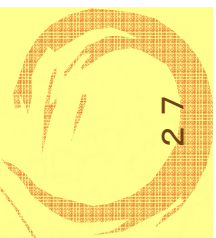
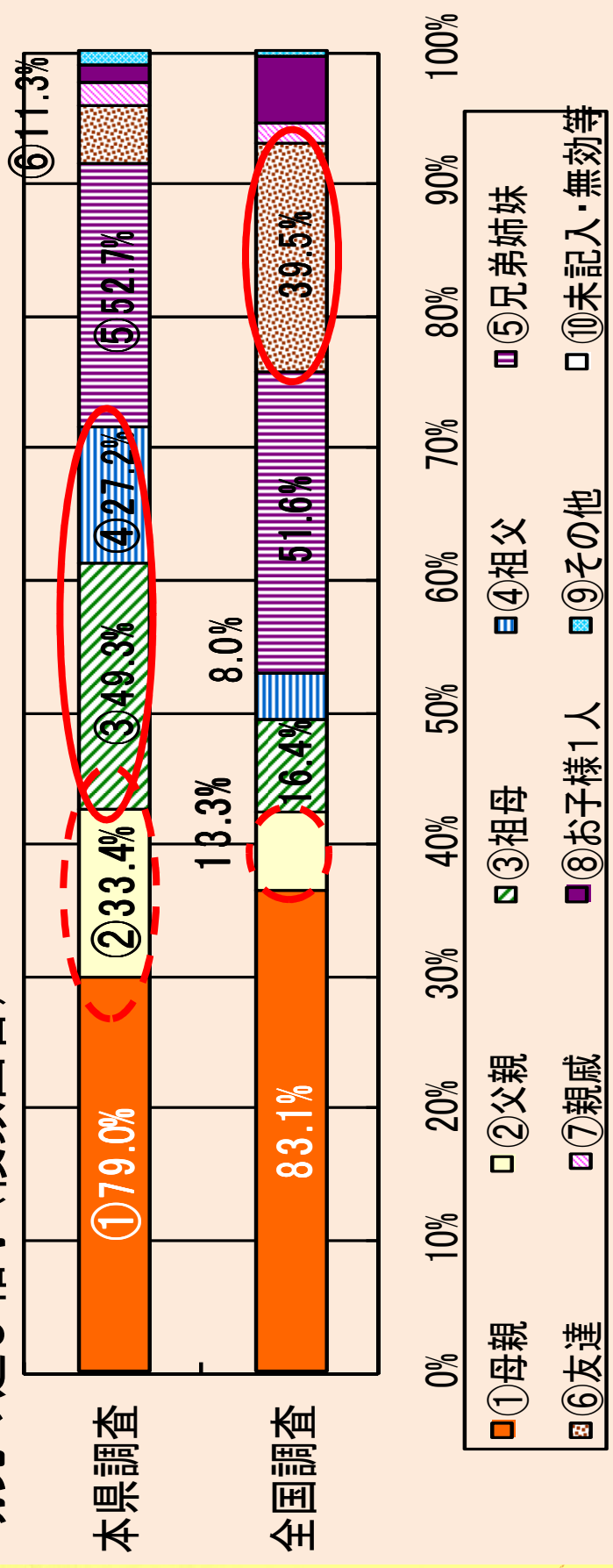
平日、幼児の遊び相手(保育所・幼稚園以外)(複数回答)



全国調査との比較（幼児の遊び相手）
～本県の特長～

- ③祖母と④祖父が面倒を見てくれる割合（76.5%）が高い。
- ②父親が育児をする割合（33.4%）も高い。
- ⑥友達と遊ぶ割合が少ない。

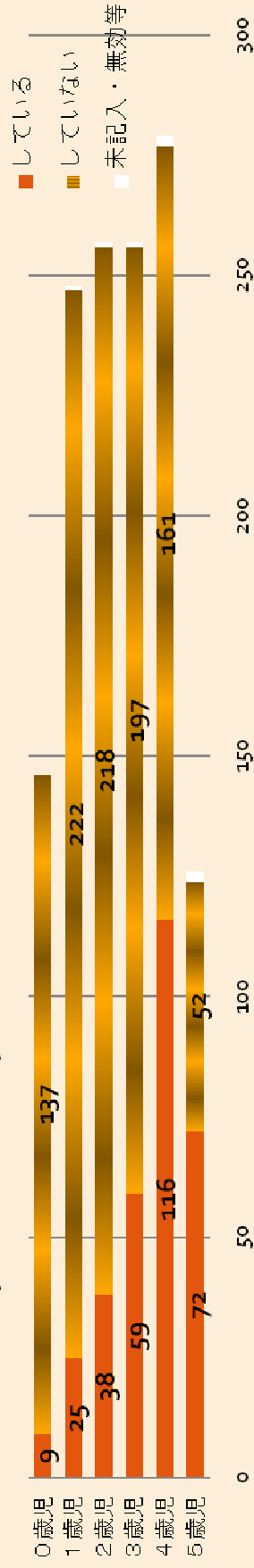
幼児の遊び相手（複数回答）



習い事・おけいこ事

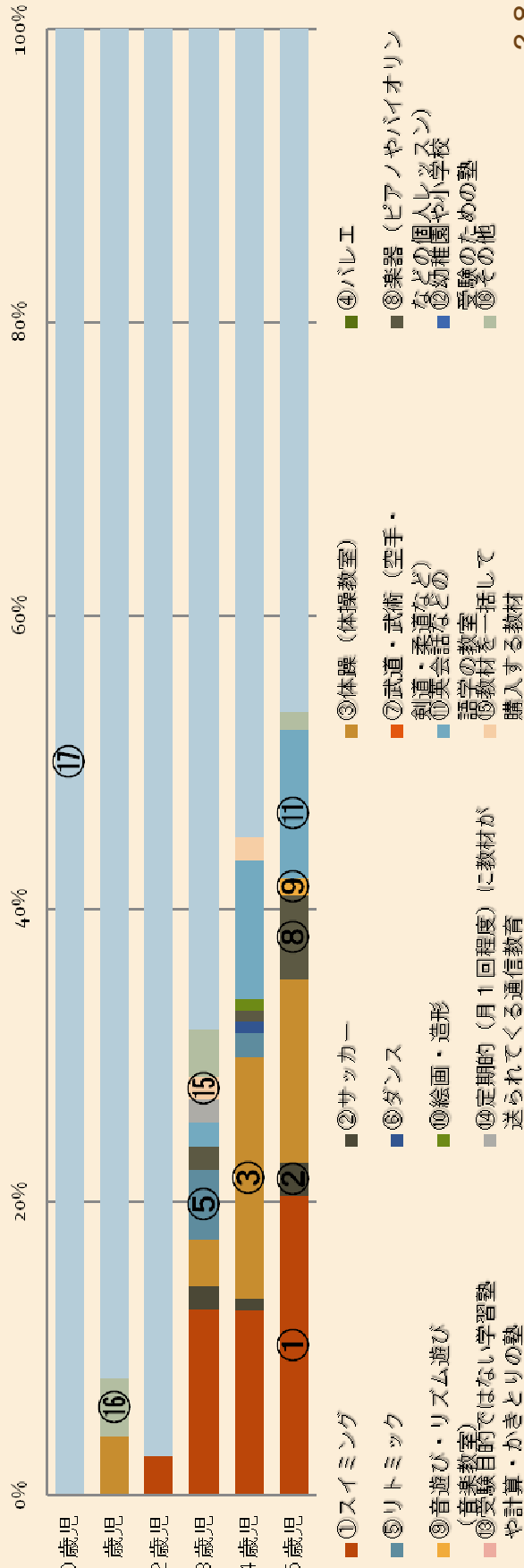
現在、習い事・おけいこ事をしている幼児の割合は**全体で24.4%**に達している。
5歳児では**57.1%**に上る。

習い事・おけいこ事の状況（保育所・幼稚園等で有料で習っているものを含む。）



保育所・幼稚園の課外活動としての習い事・おけいこ事（複数回答）

保育所・幼稚園の課外活動としての習い事・おけいこ事（複数回答）

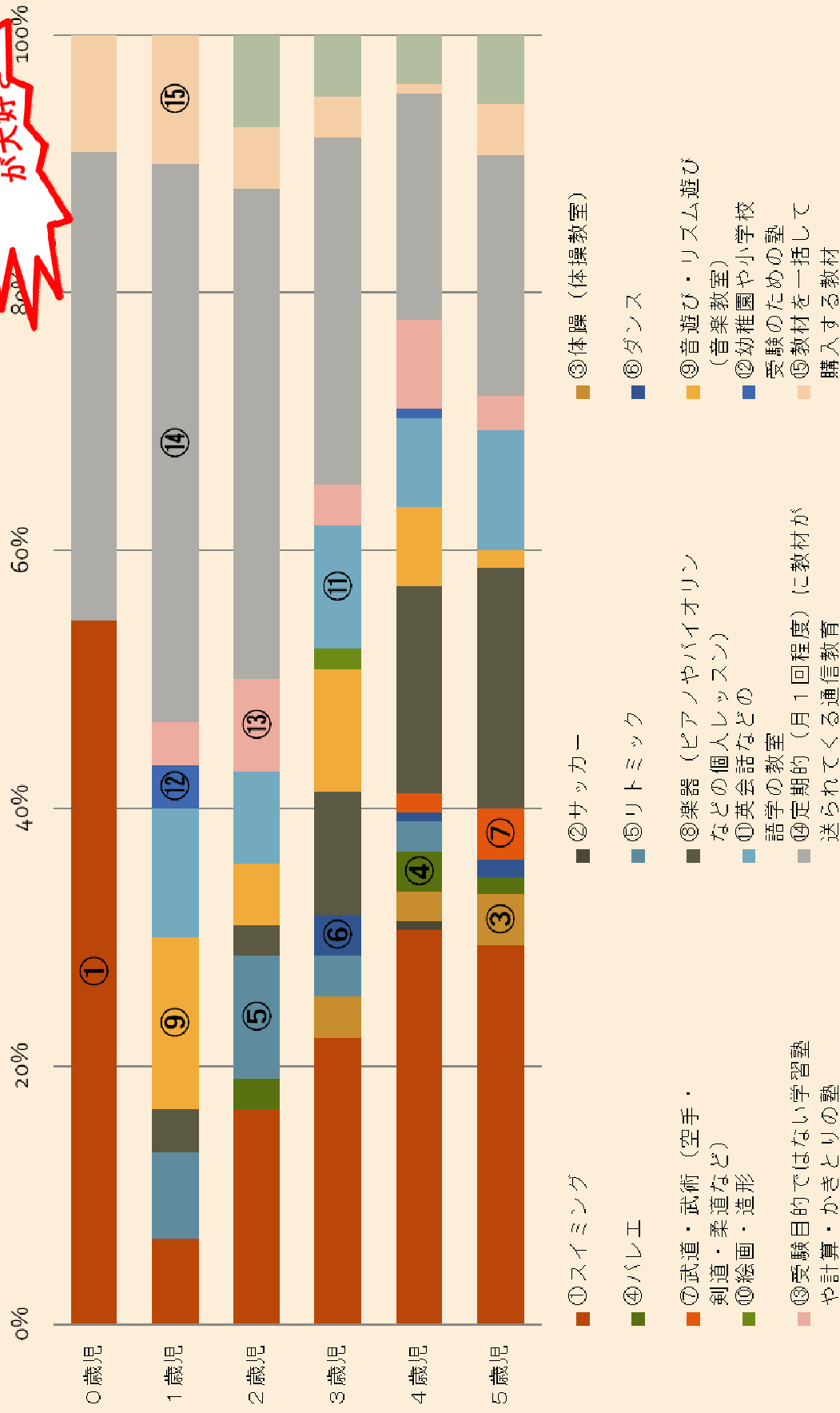


保育所・幼稚園から帰宅した後の習い事・おけいこ事

全体では、①スイミング (29.1%)、⑭通信教育 (27.2%)、⑧楽器 (13.3%) の順に多い。

スイミングが大好き

保育所・幼稚園から帰宅した後の習い事・おけいこ事 (複数回答)

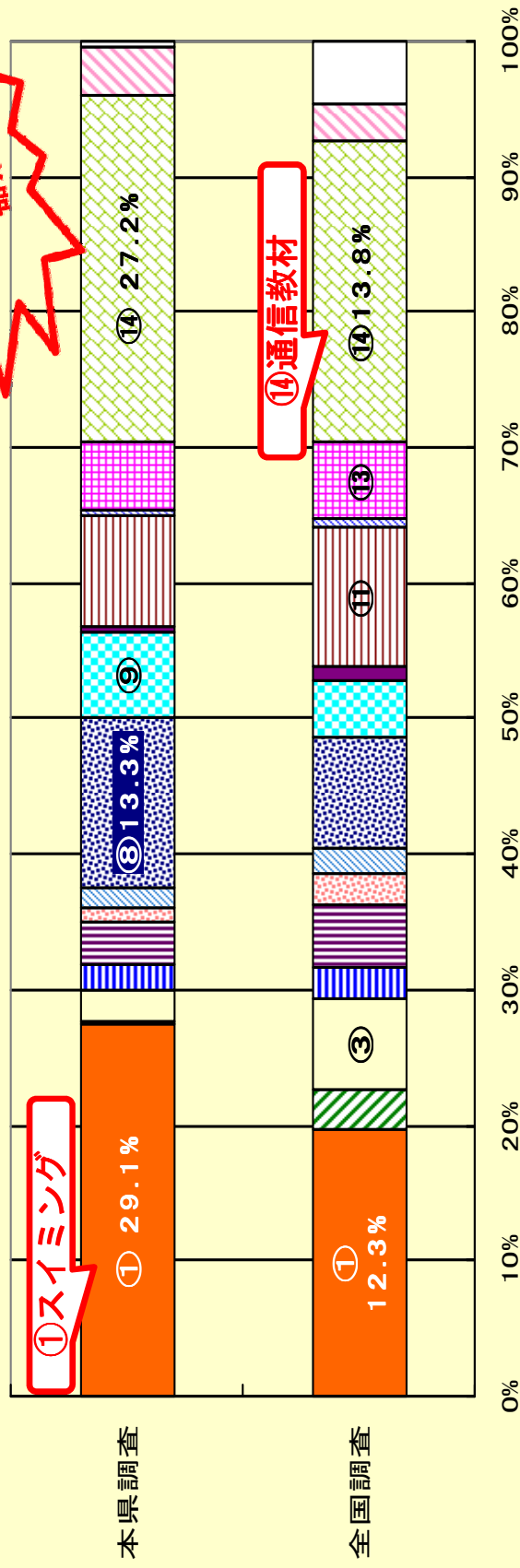


全国調査との比較（保育所・幼稚園から帰宅した後の習い事・おけいこ事）

- 本県調査 ①スイミングが最も多い。
- 全国調査 ⑭通信教材が最も多い。

スイミング、楽器、通信教材、楽器が大好き

保育所・幼稚園以外で習い事・おけいこ事（複数回答）



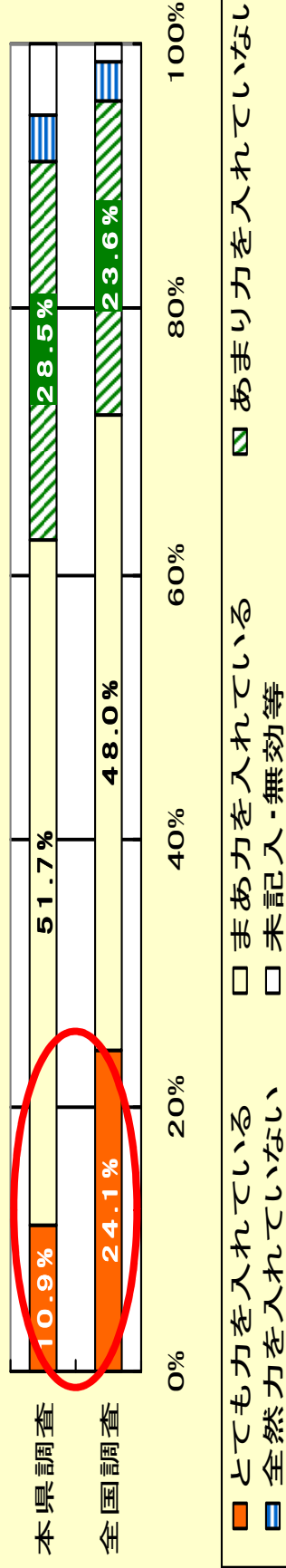
- ① スイミング
- ② サッカー
- ③ 体操 (体操教室)
- ④ バレー
- ⑤ リトミック
- ⑥ ダンス
- ⑦ 武道・武術 (空手・剣道・柔道など)
- ⑧ 楽器 (ピアノやバイオリンなどの個人レッスン)
- ⑨ 絵画・造形
- ⑩ 幼稚園や小学校受験のための塾
- ⑪ 英会話などの語学の教室
- ⑫ 受験目的ではない学習塾や計算・かきとりの塾
- ⑬ 定期的 (月1回程度) に教材が送られてくる通信教育
- ⑭ 教材を一括して購入する教材
- ⑮ その他

4 幼児教育の考え方

全国調査との比較（友達と一緒に遊ぶこと）

本県では保育所入所率が高く、幼児の帰宅時刻が16時以降となる。このため、平日夕方に幼児同士で遊ぶ時間が少ないことが背景にあると考えられる。

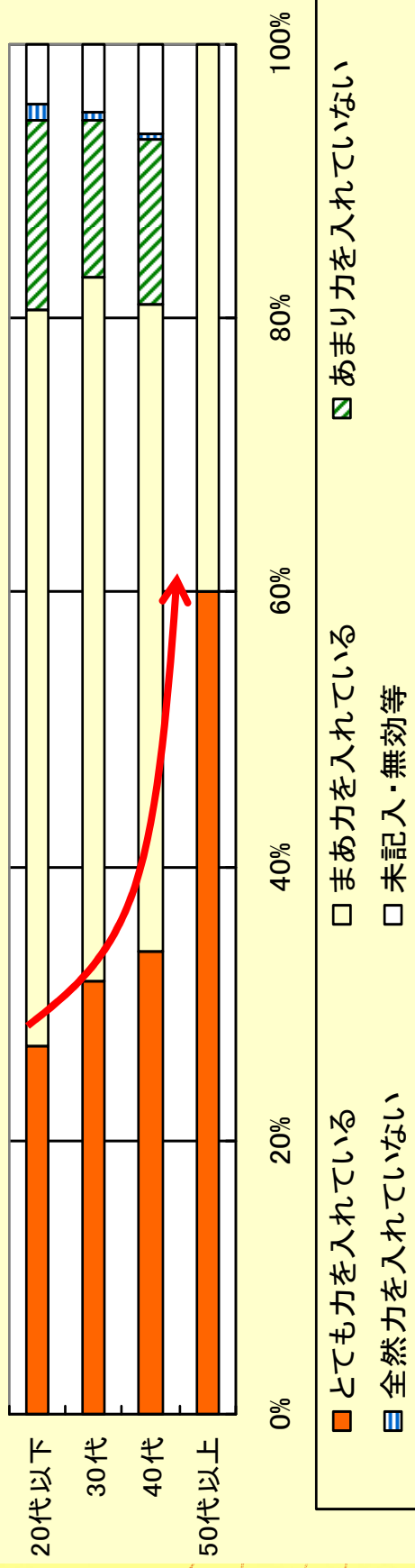
友達と一緒に遊ぶこと



自分の気持ちや考えを人に伝えること

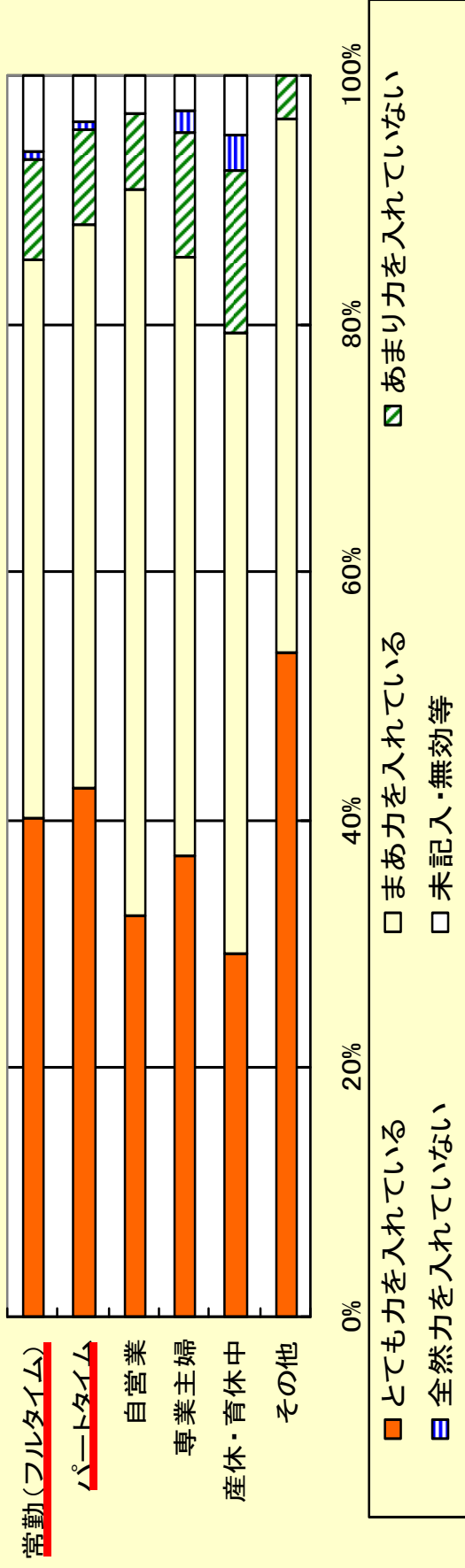
保護者の年齢が高くなるほど、関心が高くなっていく。

自分の気持ちや考えを人に伝えること



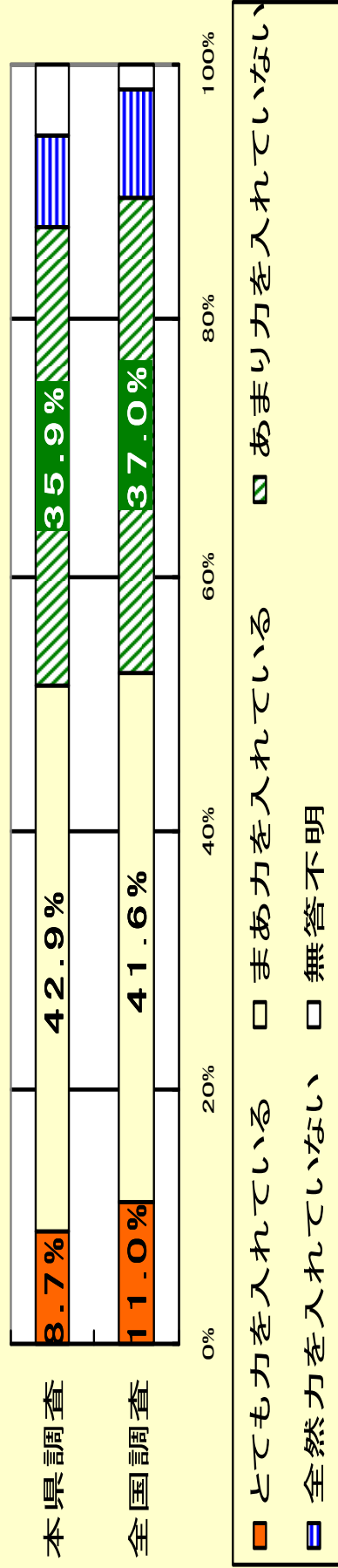
自分でできることは自分ですること
 就業する保護者（自営業を除く。）は、幼児に対し自分でできるようにしつけをする意識が高い。

自分でできることは自分ですること



全国調査との比較（数や文字を学ぶこと）

数や文字を学ぶこと

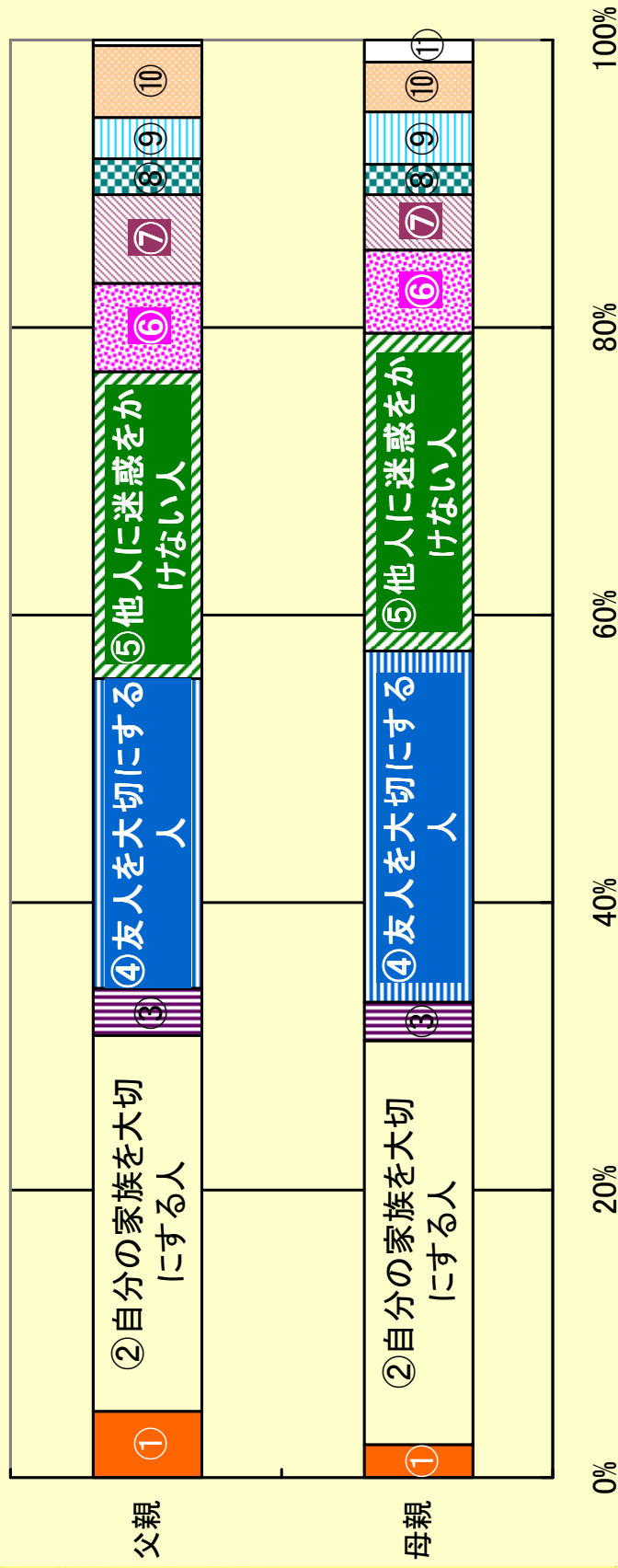


将来どのような人になってほしいか（複数回答）

全体では、②自分の家族を大切にする人(77.9%)、④友人を大切にする人(67.2%)、⑤他人に迷惑をかけない人(61.6%)の順となっている。

父親の意識では、①リーダーシップのある人(13.1%)、⑥仕事で能力を発揮する人(16.4%)、⑩まわりから尊敬される人(14.3%)が母親に比べて多い割合になっている。

将来どのような人になってほしいか



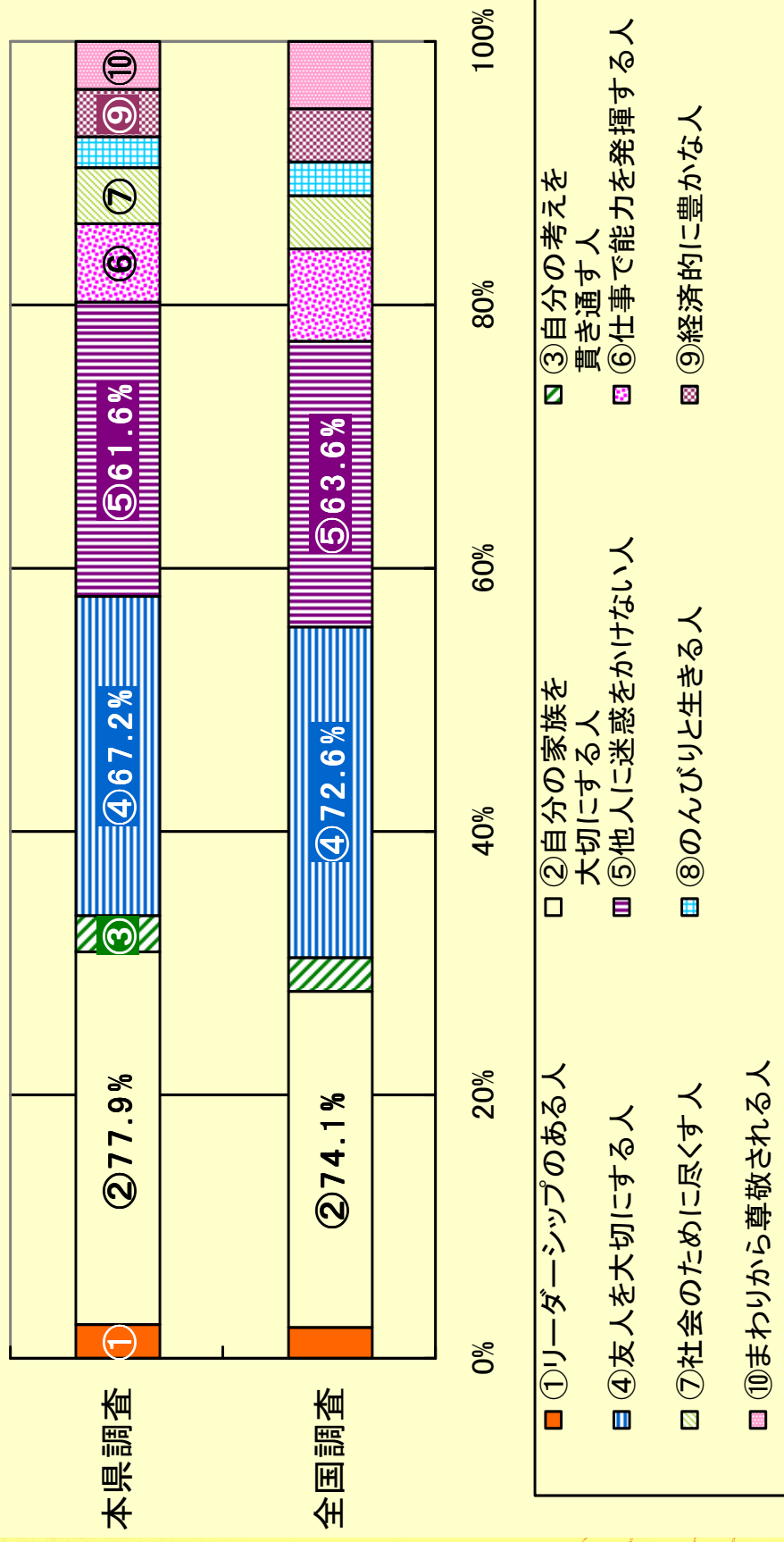
- ①リーダーシップのある人
- ②自分の家族を大切にしている人
- ③自分の考えを貫き通す人
- ④友人を大切にしている人
- ⑤他人に迷惑をかけない人
- ⑥仕事で能力を発揮する人
- ⑦社会のために尽くす人
- ⑧のんびりと生きる人
- ⑨経済的に豊かな人
- ⑩まわりから尊敬される人
- ⑪未記入・無効等

全国調査との比較（将来どのような人になってほしいか）

いずれも②自分の家族を大切にする人、④友人を大切に人、⑤仕事で能力を発揮する人の順が多い。

本県は、①リーダーシップのある人、②自分の家族を大切に人、⑤仕事で能力を発揮する人の割合となっている。

将来どのような人になってほしいか（複数回答）



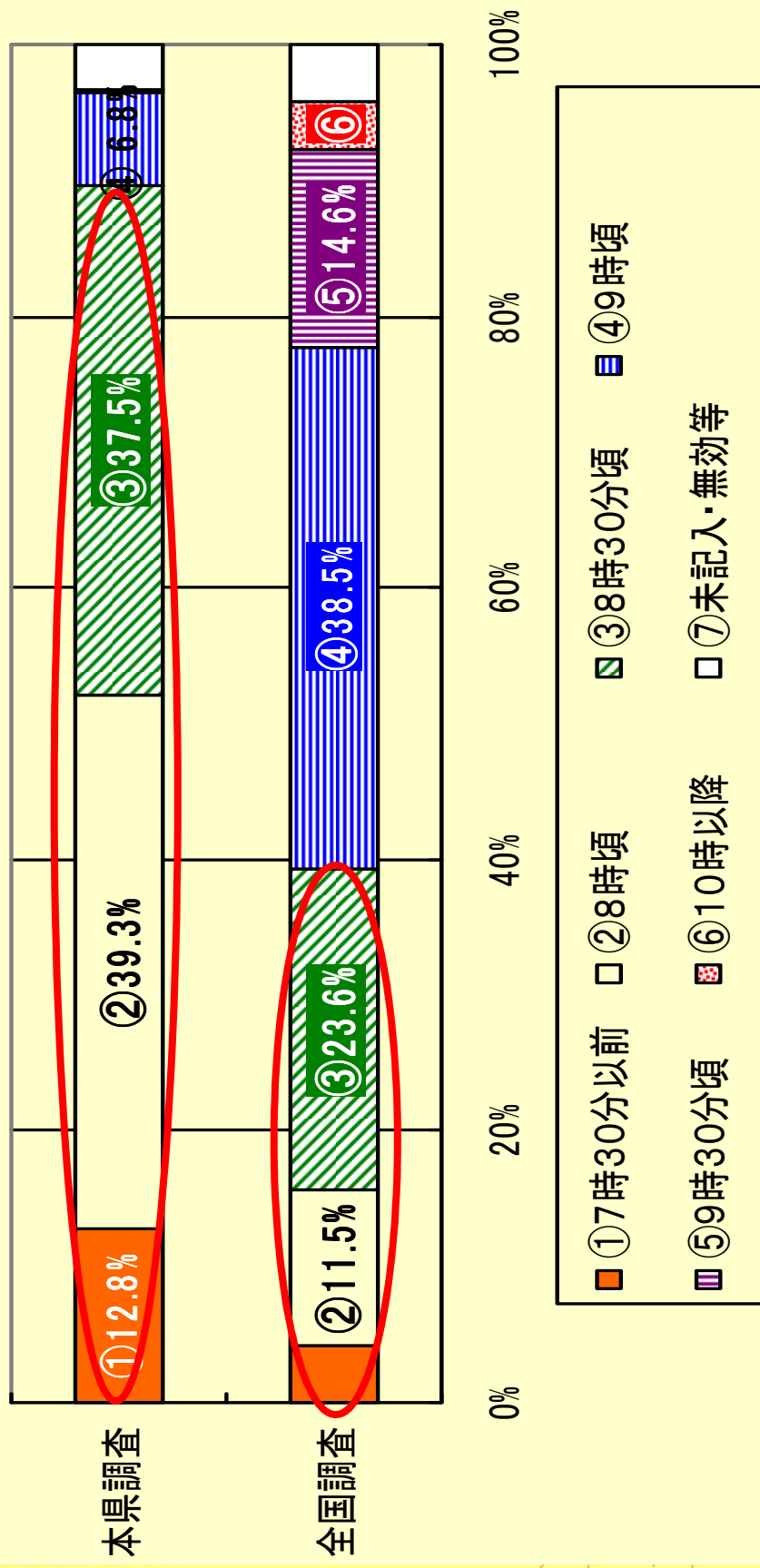
5 幼児の生活

全国調査との比較（保育所・幼稚園等に通園するために外出する時刻）

本県の幼児の約9割が登園している午前9時では、全国では約6割の幼児が自宅にいる状況にある。

本県では就業する母親の出勤時刻に合わせて外出していることが背景にあると考えられる。

保育所・幼稚園等に通園するために外出する時刻

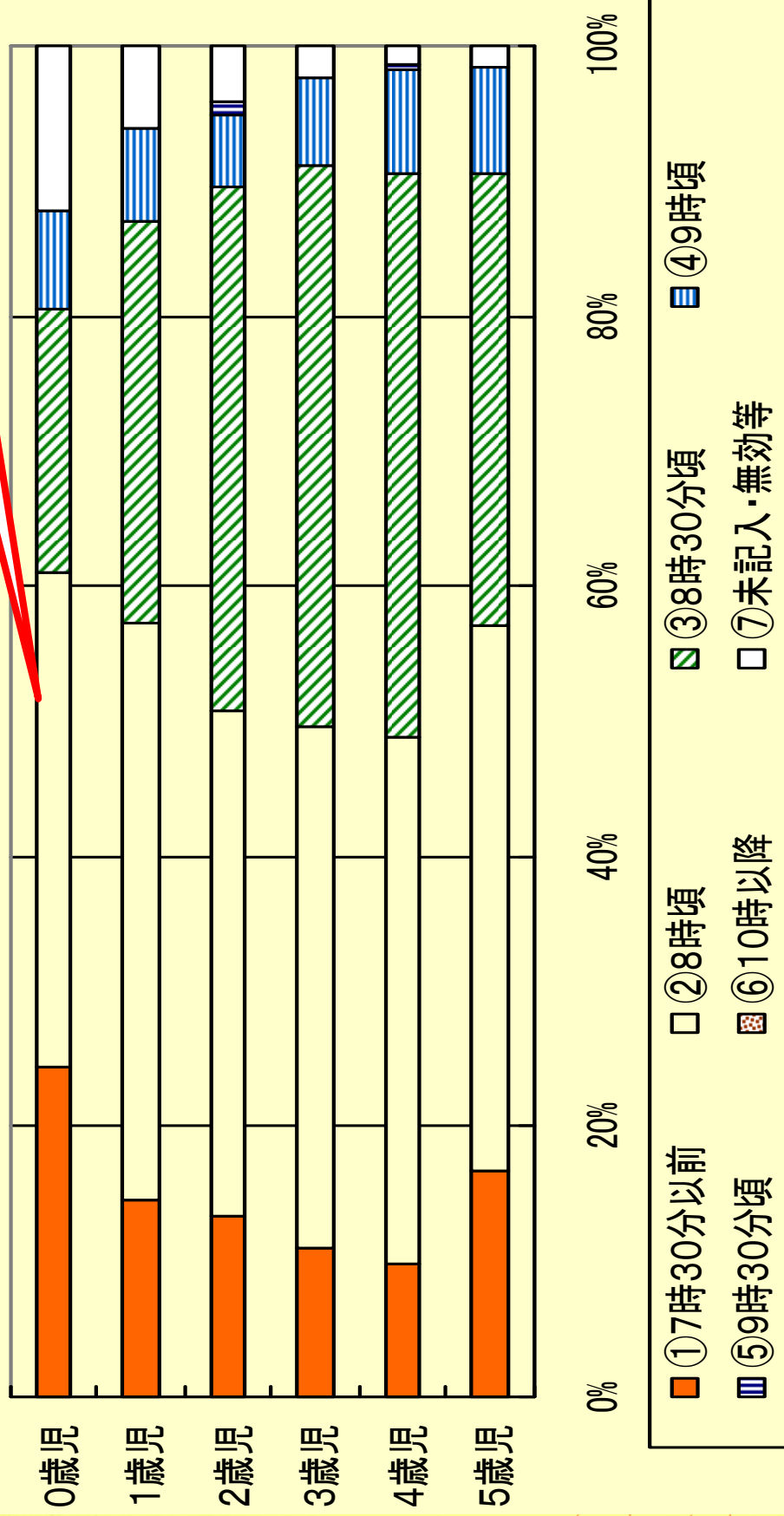


保育所・幼稚園等に通園するために外出する時刻

保育所での早期保育制度の充実などにより、乳児（0～2歳児）とその保護者の外出時刻が早くなってきている傾向にある。

保育所・幼稚園等に通園するために外出する時刻

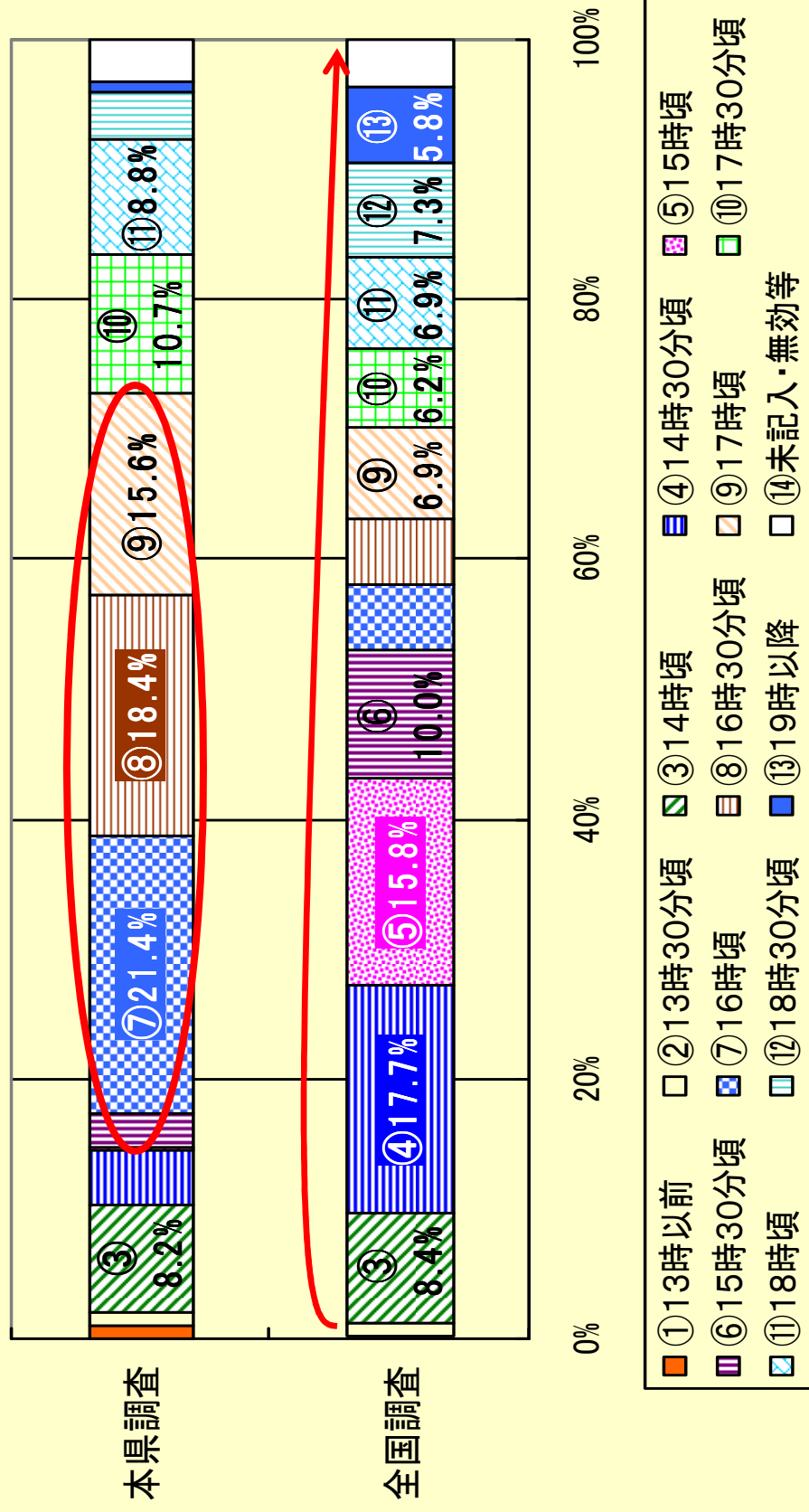
「②8時」頃に外出する幼児が多い



全国調査との比較（保育所・幼稚園等からの帰宅する時刻）

本県では、⑦16時頃から⑪18時頃の時間帯に帰宅する幼児が多い。
 全国では、④14時30分をピークに⑬19時以降までの長時間に渡り、帰宅時刻が分散している。

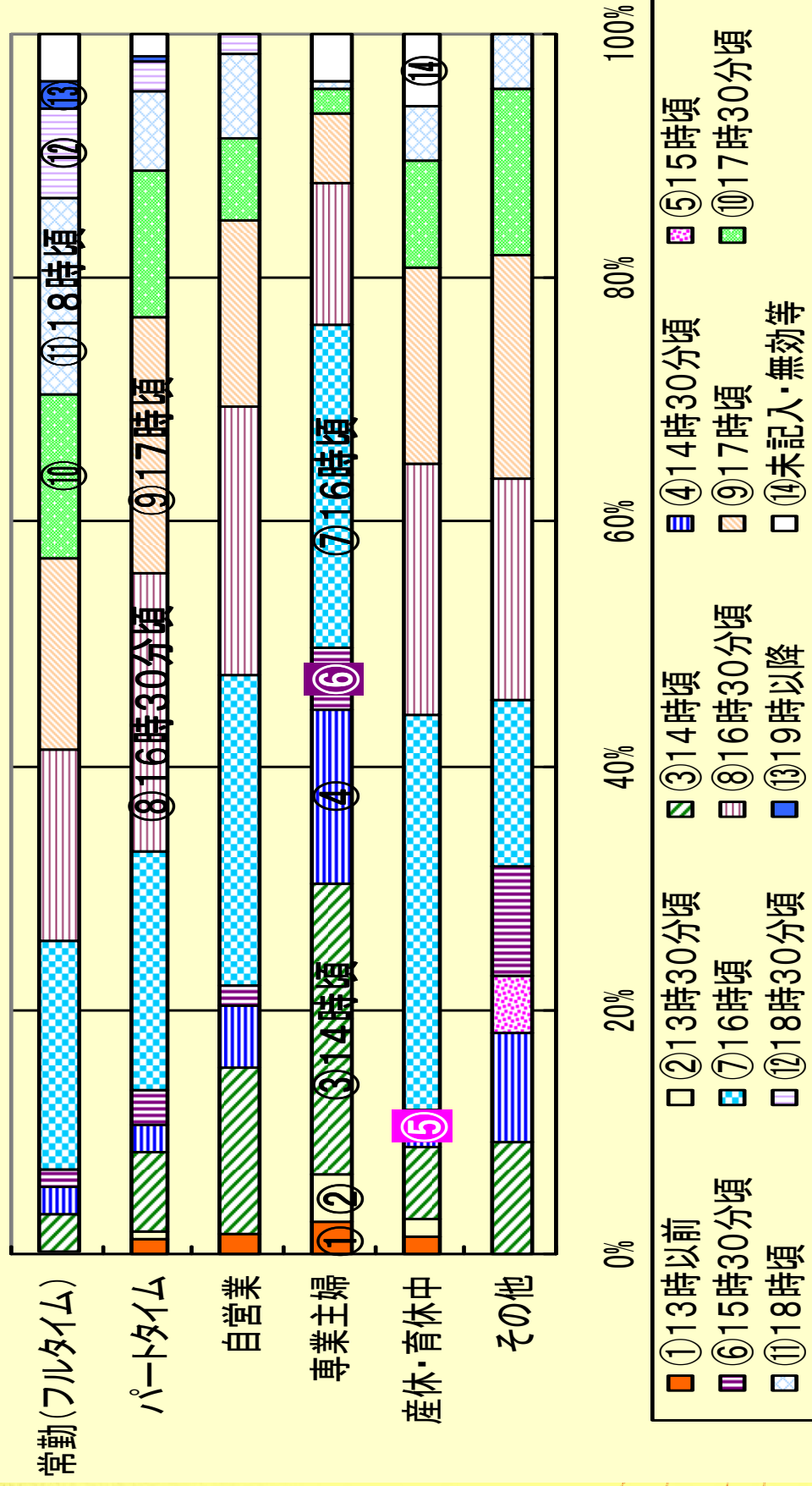
保育所・幼稚園等からの帰宅する時刻



保育所・幼稚園等から帰宅する時刻

母親の就業形態に関わらず、**幼児の帰宅時刻は⑦16時頃**が最も多い。
 自営業と専業主婦の場合、③14時頃の割合も目立っている。

保育所・幼稚園等から帰宅する時刻

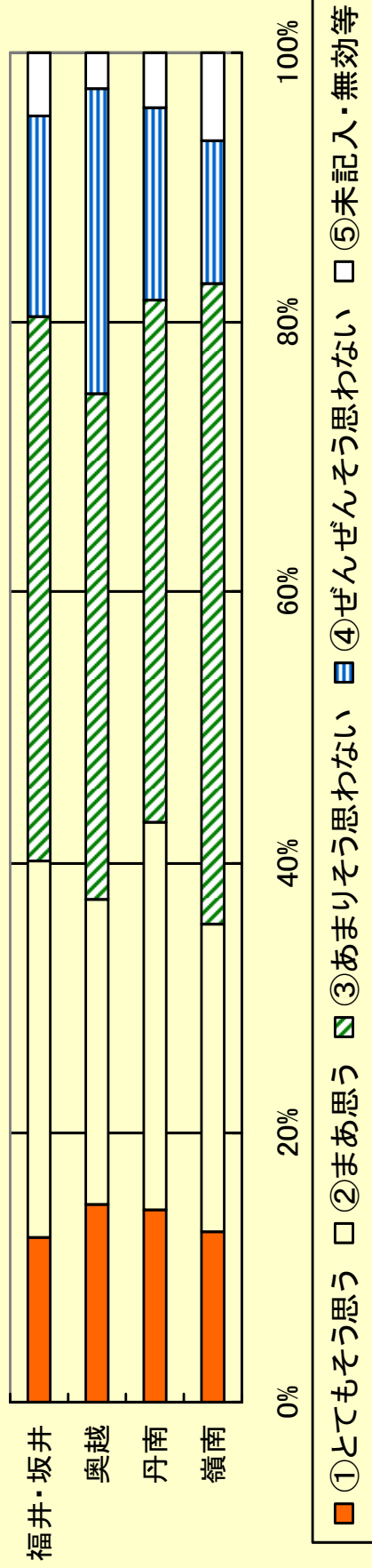


5 保育所・幼稚園等への要望・意見

保育の時間を長くすること、または延長保育をしてほしい

保育時間の延長、延長保育を望む意見は約4割(39.2%)で、思わないと回答した割合(55.8%)を下回っている。

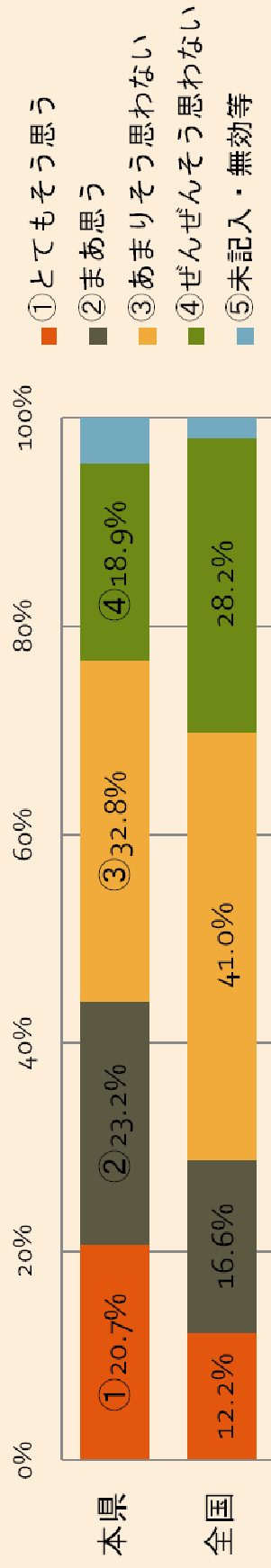
保育の時間を長くすること、または延長保育をしてほしい



全国調査との比較 (子どもが病気の時に預かってほしい)

子どもが病気になり、①ともそう思うと②まあ思うの本県割合 (43.9%)は、全国(28.8%)に比べて本県が15%程度高い。

子どもが病気の時に預かってほしい



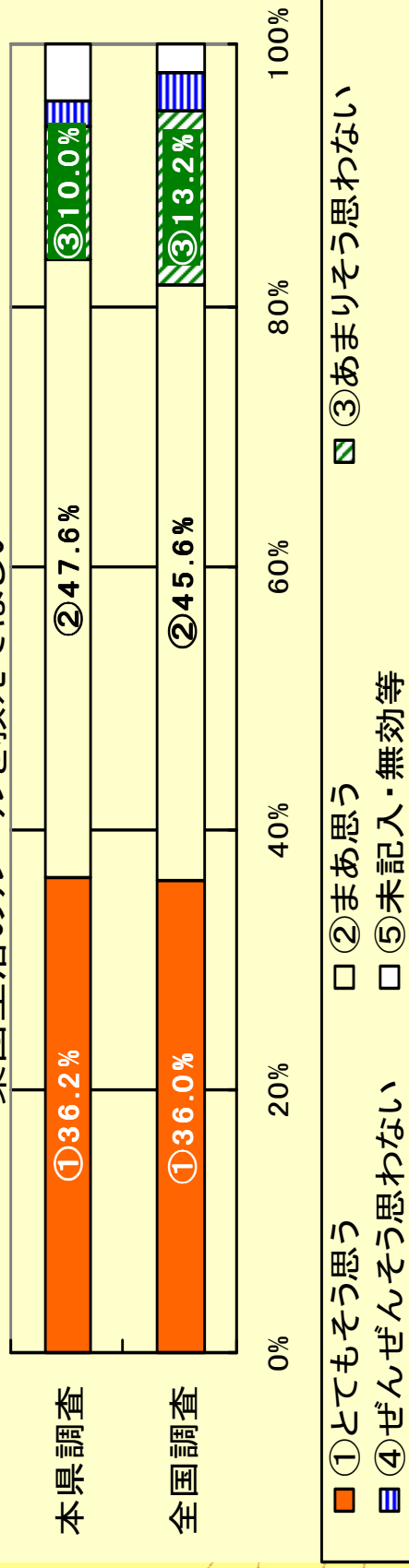
全国調査との比較（保育終了後に保育所・幼稚園でおけいこ事をやってほしい）

保育終了後におけいこ事をやってほしい



全国調査との比較（集団生活のルールを教えてほしい）

集団生活のルールを教えてほしい

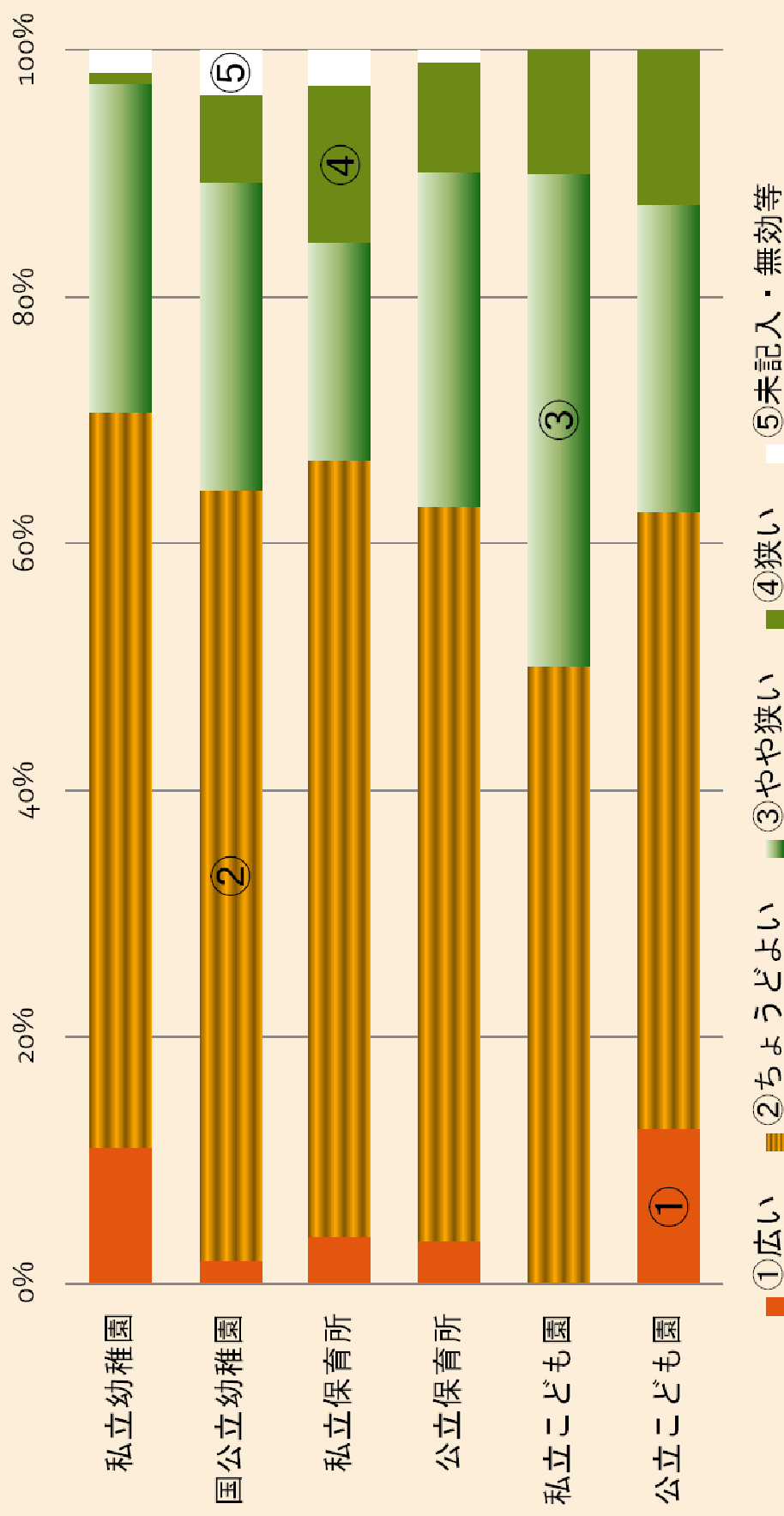


6 楽しい園生活

園庭の広さ

概ね6割の保護者が、通園する保育所・幼稚園の園庭が広いまたはちょうどよいと感じている。

保育所・幼稚園の園庭の広さ



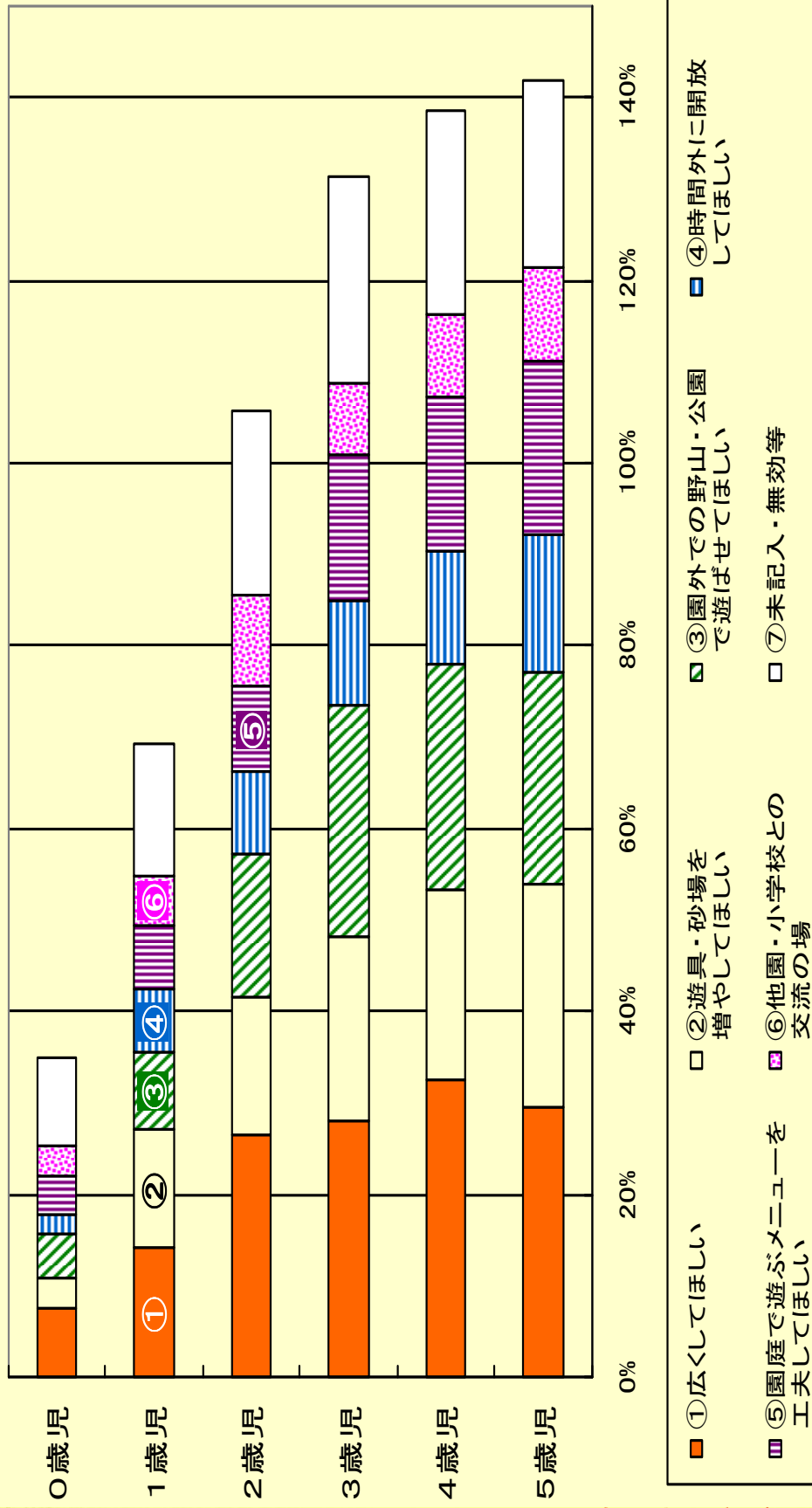
園庭に関する要望・改善点

幼児の年齢が上がるほど要望・改善点が増える傾向にある。

3～5歳児の保護者の要望・改善点

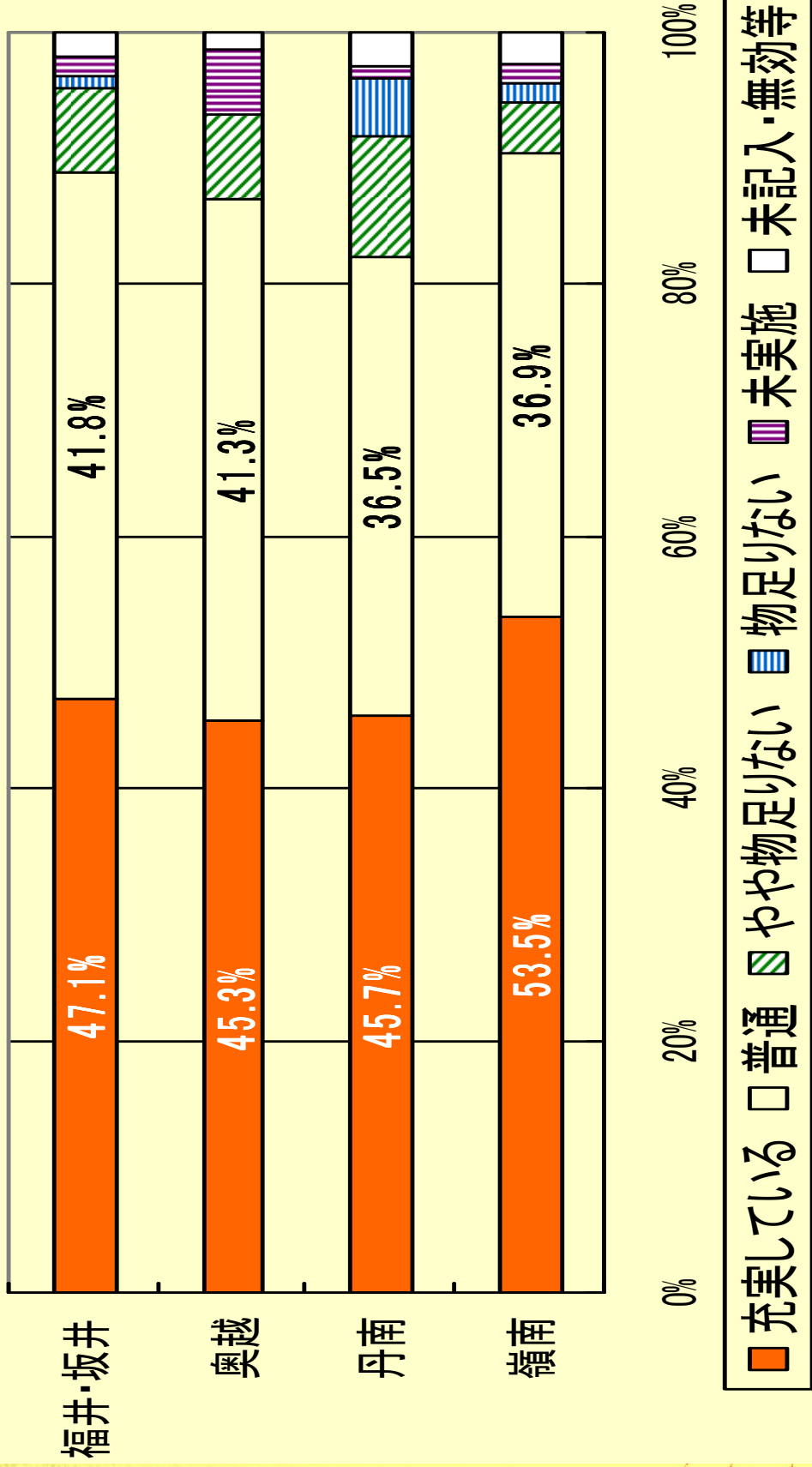
①広くしてほしい、③園外での野山・公園で遊ばせてほしい、②遊具・砂場を増やしてほしいの順となっている。

園庭に関する要望・改善点(複数回答)



給食の満足度

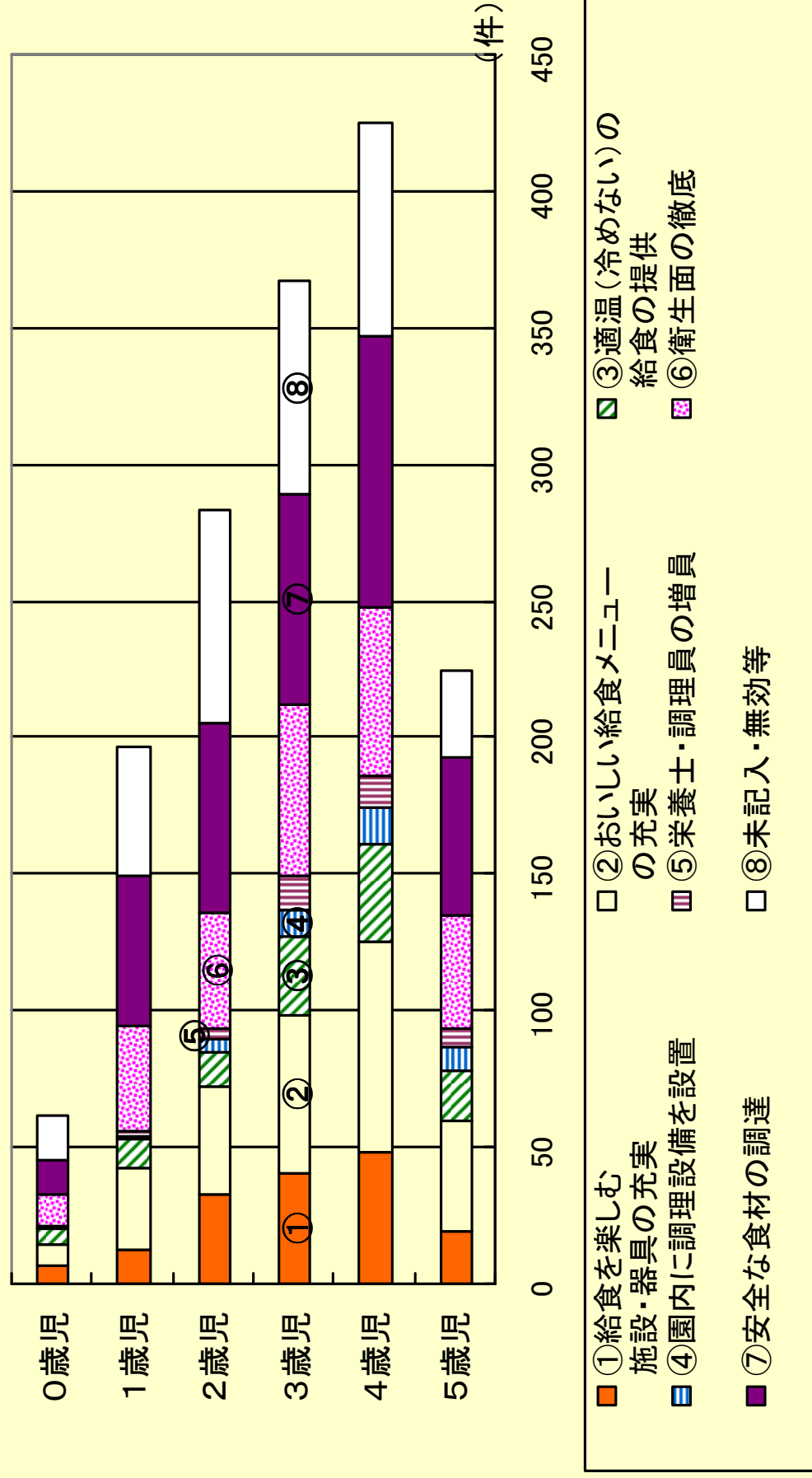
保育所・幼稚園等の給食の満足度



給食施設の改善点

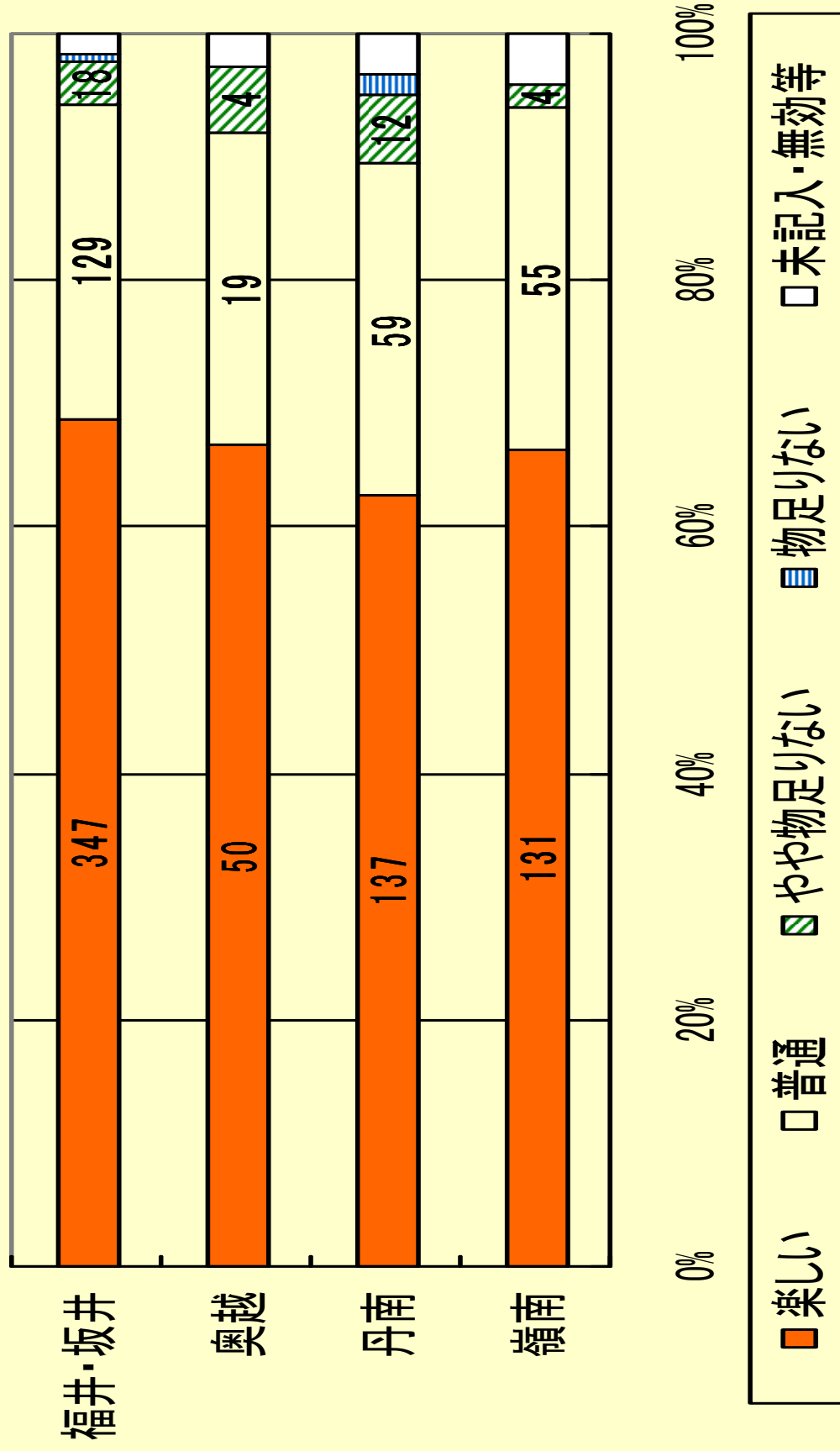
⑦安全な食材の調達割合が最も高い。
次いで、②おいしい給食メニューの充実または⑥衛生面の徹底が続いている。

給食施設に関する改善点



園生活の満足度

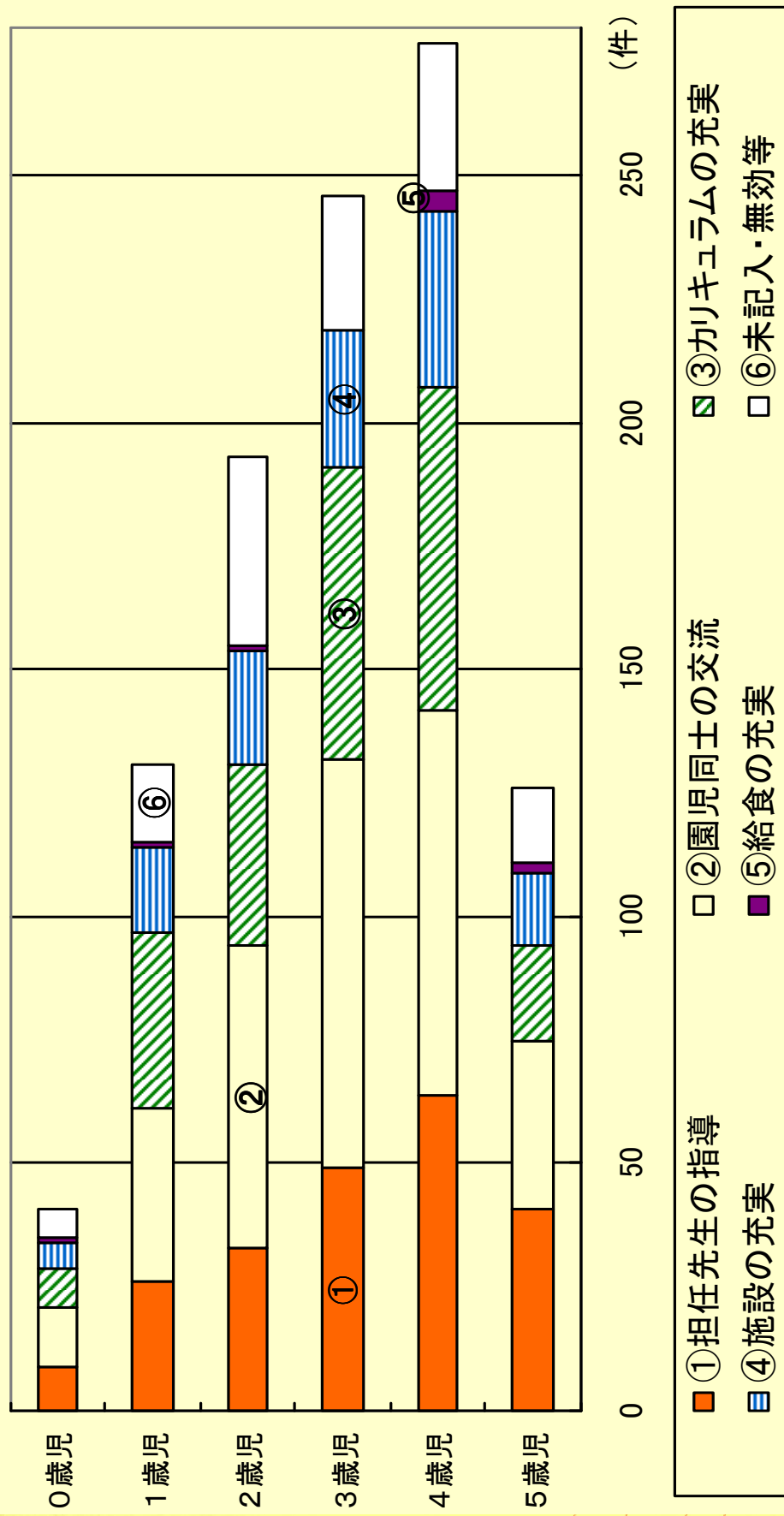
園生活の幼児の状況



園生活をさらに充実させるために最も重要なこと

5歳児の保護者は①担任先生の指導の充実を、それ以外の保護者は②園児同士の交流の充実を求めている。
また、1歳児または3～4歳児では、③カリキュラムの充実を上げる割合が20%を超えている。

幼児の園生活をさらに充実させるために最も重要なこと(複数回答)



ご清聴ありがとうございました。
本日、ご報告させていただいたアンケート結果を共有し、みなさんと一緒に、これからの幼児教育のあり方を検討していきます。
このアンケート結果は、県幼児教育関連ホームページに掲載します。

<http://www.pref.fukui.jp/doc/gimu/youji.html>

ご参加いただいたみなさんは、こうした現状を関係者や保護者のみなさんへ周知いただけたら幸いです。

